

一 般 質 問 通 告 書

令和 7 年 6 月 2 日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 9 番 是永 宙

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が 2 以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・ 質問番号 1 の用紙にだけご記入ください。
- ・ 質問が一つだけの場合は必然的に 1 となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発 言 事 項	児童生徒の下校時の熱中症予防と安全確保について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
近年、全国的に子どもの安全を脅かす事案が多発しており、登下校時の安全確保は地域社会全体で取り組むべき課題の一つになっており、高島市においても、地域ぐるみの見守り活動や子どものSOSをキャッチしやすくする取り組みはますます重要になっています。その取り組みの中でも、「こども110番のおうち」は、子どもたちが危険を感じた際に一時的に避難したり、助けを求めたりできる場所として重要な役割を担っています。しかし、その機能が十分に発揮できるように備えられているか、また子どもや市民への認知度は十分にできているか、という課題を感じています。 子どもの安全を脅かすのは自動車や不審者だけではなく、近年、夏季における猛暑が常態化しており、「猛暑は災害」として認識されるまでになっています。環境省が作成している「熱中症予防情報サイト」によると、高島市（今津）の過去 5 年間のデータを見ると、暑さ指数・WBGTで「厳重警戒」（すべての生活活動で熱中症がおこる危険性があり、外出時は炎天下を避ける）とされている指数 28 以上の日数は年々増加していて、夏休み期間（7 月 20 日～8 月 31 日）を	

除く6月20日から9月30日までの60日間で、2020年は12日であったのが、2024年には35日に増加しています。炎天下の中、下校する小中学生の熱中症リスクが深刻な課題となっていると考えます。学校管理下での熱中症対策は進められているものの、下校時、特に学校から自宅までの移動中に熱中症を発症したり、気分が悪くなるといったケースもあり、保護者やスクールガードの人からも不安の声を聴いています。高島市においても、この問題への積極的な取り組みが必要であると考えます。

【「こども110番のおうち」について】

問1 「こども110番のおうち」は日常的に子どもが通行する通学路沿いにあることが望ましいと考えますが、市内の設置状況はどうなっているか。また、地域ごとの偏りや子どもが「110番のおうち」を見つけにくいようなエリアはあるか。

問2 「こども110番のおうち」に子どもが駆け込んできた際の、学校、警察、救急、保護者などへの緊急連絡がスムーズに図られるよう検証はされているか。協力者の方々に対して、子どもへの対応方法や緊急時の連絡体制に関する情報提供や研修は定期的に行われているか。

問3 児童生徒に対して「こども110番のおうち」の場所や利用方法について、どのように周知されているか。子どもたちが実際に利用できるような形での理解促進が図られているか。

問4 「110番のおうち」の表示が子どもに見やすいように設置されているか、また、協力者の意向確認はどのようにしているか。

【下校時の熱中症対策】

高島市教育委員会および各小中学校における、下校時の熱中症対策の現状について伺います。

問5 下校時における熱中症予防に関してどのような対策をしているか。

問6 特定の暑さ指数・WBGT 値を超えた場合の下校時間の変更や、部活動の中止基準など、客観的な指標に基づいた判断基準を設けているか。